探訪 新ライフスタイル

ライフスタイル

広がるソーシャルアパートメント

共用部充実、隣人と緩く交流

一つの家を複数の人と共有して暮らすシェアハウス。従来は経済的負担を少なくすることを目的にした小さなシェアアパートメントがほとんどであったが、最近は共用部にコインランドリーやカフェ、ライブラリーなどを設けた生活共有型シェアハウスが台頭。入居者同士がつながる場として広がってきた。今やシェアハウスの概念が変化し、新しいライフスタイルの一環として認知されてきた。

「ワールドネイバーズ清澄白河」は木場公園に隣接しているのが特徴（東京都江東区）

日本シェアハウス連盟によると、東京及び神奈川、埼玉、千葉の1都3県で全国の8割強を占め、入居者は20歳から40歳までで約9割を占めるという。一人暮らしでは得ることができない、友達以上家族未満の暮らしとはどのようなものだろう。

木場公園と隣接したシェアハウス「ワールドネイバーズ清澄白河」（東京・江東）は、東芝の社員寮だった建物を2017年にリノベーションした全134室の大型シェアハウス。主となるスタンダード1K（バス、トイレ、ミニキッチン付き）での最多賃料帯は9万4000円である。

1階には一般の人も利用できるオシャレなカフェランドリー、入居者専用のワーキングラウンジ、バーとビリヤード、ルーフトップテラスも完備されている。最寄りの清澄白河駅からは徒歩約15分かかるが、向かいには約24万平方㍍の広大な木場公園があり、テニスコートやバーベキュー、美術館が整備され、公園と共に暮らす生活を楽しめる。

男女比率も同等で多くの外国人入居者もいるため、多様なコミュニケーションが行き交う。実際、シェアハウス仲間でヨガや屋上での映画鑑賞会、アウトドアサウナに出掛けるなど豊かな時間を過ごしている。

開発したグローバルエージェンツ（東京・渋谷）は、自分の時間や空間はマンション並みに確保しつつ、入居者同士が共用ラウンジでコミュニケーションを楽しむソーシャルアパートメントと標榜する。

最近は「コンセプトシェアハウス」という、特定のテーマやコンセプトに絞られたシェアハウスも開発されている。例えば、防音設備のスタジオが共用部にあり、音楽好きの人たちが集まる趣味特化型のハウス。シングルマザーに限定して、互いに協力しながら共同生活していく助け合いハウスなども出現した。

これらの動向から、筆者はシェアハウスに共通するキーワードは〝社会交流欲求〟と考える。アメリカの心理学者、アブラハム・マズローが提唱した欲求5段階説によると、最終ゴールは自己実現欲求だが、現代は自分だけが満足すれば良いという人生ではない。一緒の仲間や友人と交わりながら、互いに幸せを実感する社会交流欲求がその先にあるのではないだろうか。

経済価値を重視した平成のシェアハウスから、交流価値に重きを置く令和のシェアハウスには、隣人と緩やかにつながる社会交流を楽しみつつ、新たな自己実現を達成する居住スタイルの場と推し量る。

（商い創造研究所代表　松本大地）